

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3270600228		
法人名	ドクターリセラ株式会社		
事業所名	グループホーム ひのき		
所在地 (電話番号)	島根県江津市都野津町2340-(電 話)0855-53-4031		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟町43		
訪問調査日	平成20年2月7日	評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供票より】(20年 1月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 4 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	6.1

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(1 月 25 日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 73 歳	最高 89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	国沢内科医院 菅田歯科医院 島根県済世会江津総合病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者はホームが気軽に人が集まる所になるのを目指しており、多くの方の出入りがある。ホームのほうからも地域の行事には積極的に参加している。利用者は昼食前には嚥下体操やまめな体操で機能の低下を防いでおり、冗談を言いながら大きな声で体操している。手を出し過ぎない、粘り強い見守りが大切にされており、職員の適切な支援のもとに利用者は入居前より生き生きとした表情や姿がみられるようになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目の1、地域への広報活動については近隣住民の認知症の相談に乗るなどして、ホームへの理解を促進している。2、馴染みの物の持込に関しては改善されている。3、介護計画の見直しは3ヶ月に1回に改善された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を管理者のみが行うのではなく全職員が話し合い手分けして行ったが、全項目を話し合い、検討し、課題を共有する取り組みまでには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度2回開催されており3月に3回目を計画している。ホームの概況、外部評価報告などが討議されている。病院関係者など幅広い出席者から意見を聞くほか、行政側からアドバイスも得ている。話し相手になってくれるボランティアが欲しいと事業所側からの要望も出された。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回ではあるが家族会が持たれ、意見、要望を聞く機会を設けるほか、日頃の面会時には様子を伝えるとともに意見、要望を聞いている。出された意見は職員会議で話し合っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に出かけたりボランティアが訪問したりしている。小学生や友人が立ち寄り、研修生の受け入れもおこなっている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしく生活していただく」をベースに事業所と地域との関係性強化を謳った理念を作り直す用意がある。	○	全職員で共有しながら作り上げていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や申し送り時、介護の場面で折に触れ理念の共有化を図っており、常に頭に理念をおいて、日々のケアの実践に活かしている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者、職員が近くに住んでおり、近隣の友人や小学生が遊びに寄ったり、果物や魚など持ってきてくれる人もいる。利用者が地域の行事には積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員に振り分けてまとめたが、ひとつひとつの項目を話し合い、検討し、課題を共有する取り組みには至っていない。	○	外部評価を積極的に活用していただきたい。運営者、管理者から積極的に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	病院関係者などの出席者も得て事業所からの報告と自己評価、外部評価の公表がなされている。要改善点も議題にあげられている。	○	2ヶ月に1回の開催が望まれ、出された意見を改善に活かして頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>クリスマス会などの行事に市職員の有志によるボランティアの協力がある。相談が生じた際は市の担当者の協力で解決が得られている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月一回、家族に管理者が個人個人のお便りを送付して報告をし、行事やお誕生日会の写真など同封している。預かり金の報告も毎月している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問時や、年一回の家族会で問いかけたり、現状説明をして意見、要望を聞くようにしている。出された意見は職員会議で話し合っている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来一名のみの退職である。リーダーが新人に一月以上ついて勤務した。情報を皆が共有しているので混乱は見られなかった。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修、学習会には多くの職員が受講できるように配慮され、積極的に参加している。学んできたことは職員会議の中で伝達され、全職員が共有している。資格取得への支援もされている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会で知り合った同業者と見学会を実施したりしている。研修者を受け入れている。</p>	○	<p>職員が同業者と交流できる機会を多く作られる事を期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず事前訪問をし、本人の状態や環境を把握する。申し込み時には本人と家族に来て貰い、本人に納得して貰っている。受け入れに不安のあった時はお試し入居をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の色々な場面で手伝って貰ったり、味付けや料理の作り方を教えてもらったり、落ち込んでいるとき声をかけて貰い元気を貰うなど、お互い支えあう関係となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して利用者の思いの把握に努めているが、なお新しい方法を模索している。スキンシップなどを図り希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当者が利用者と話したり、日々の暮らしの中での気付きをケアプランに活かすよう意識してきている。職員会議で全員で話し合っ決めていく。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、担当者を決め認識を新たにし、三ヶ月に一回の見直しを始めたところである。職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	○	よく努力されているが、さらに一ヶ月に一回は職員全員で計画を見直し確認をおこなっていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	原則として協力医療機関先への付き添いや送迎は事業者が行っている。退院支援や墓参りなど特別な外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医とは24時間体制で往診や訪問介護にきて貰うなど良い関係が築けている。眼科医など利用前からのかかりつけ医を希望されれば家族と協議して支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と話し合い、かかりつけ医の夜間対応も得られたので99歳の方の看取りをおこなうことができた。初めての取り組みで多くの学びがあり、職員一同の励みになった。	○	これからもホームが対応しうる最大の支援方法を踏まえて方針を関係者で話し合い支援して行って頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事時のさりげない誘導など利用者を尊重した対応を心がけている。個人情報の取り扱いも配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、利用者の希望を聞きながら、個々のリズムやペースに沿って、今もっている能力を活かすようにしながらゆったりと支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	珍しいものや近所からの差し入れを上手に取り入れて、献立、下拵え、調理など一緒に楽しんでいる。食事でも「皆で食べると美味しいね」と何度も言われる利用者もいて、職員も一緒に食事を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯、曜日は決まっているが、本人の希望があれば調整を行い入浴をおこなっている。週2回の方が多い。	○	毎日声をかけながら、利用者の希望に応じてさらに柔軟な対応ができるよう望みたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者ひとりひとりにどう張り合いや喜びのある日々を過ごして頂けるかと心遣いをしている。おやつ時に昔話を聞いたり、庭でのお茶や食事など工夫している。	○	引き続き話し相手になって耳を傾け、利用者の希望や意向を受け止めながら張りのある生活を支援していただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は裏の公園に散歩にでかけたり、春には川土手まで土筆を摘みに行く。地域の商店街の理解を得て買い物や外食も楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に利用者の様子を見守っており、日中は鍵をかけないケアができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地元の消防団の協力を得て定期的に避難訓練を実施している。非常用の食料、備品も準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をチェックし記録に残している。嗜好を把握し味付けを考えたり、刻んだり個人にあった食事を用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は居間、食堂、台所がつながり家庭的である。2階が居室であるが、真ん中が広いリビングルームで、ここでもテレビを見たり、お茶を飲んだり生活を楽しめる。外にもテーブル、ベンチが置かれ苺や花が植えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、時計、写真、位牌等が持ち込まれ、我が家の雰囲気を楽しむことができる。		























